

学部・講義：幼児や保育者の姿、保育の現場を思い描きながら 自らの考えを深める

幼児教育・青井倫子

1. 授業の概要

幼年教育の専修科目（2回生対象必修）であると同時に、幼稚園免許状の教職に関する選択科目（一種：必修、二種：選択必修）、保育士コースの必修科目である。

授業の内容は、(1)幼稚園教育要領改定の骨子、(2)幼児教育の方法及び領域の捉え方、(3)領域「人間関係」導入の背景と意義、(4)幼児をとりまく人間関係の特質と機能、(5)幼児の仲間意識発達のすじ道、(6)人と関わる力を育む保育のあり方である。

2. 受講学生 20名

2回生：16名、3回生：3名、M2生：1名

3. 授業の工夫

(1)受講生の半数は、幼児教育の基礎知識や、幼児と関わった経験、保育現場を見学した経験などがない学生である。そのような学生であっても、具体的な幼児の姿や保育現場をイメージしながら授業を理解できるような配慮を心がけた（ビデオ視聴、保育者と幼児のやりとりを再現、青井が地域貢献や研究上記録した事例をプリントで配布、等）。

(2)学生が自らの意見や考えを持ちながら理解を深めていけるよう、発問-応答のやりとりを多く取り入れた。

(3)青井が幼児を演じ、学生に保育者として対応させ、それに対してコメントや解説を与える方法も多く取り入れた。

4. 授業評価の方法と結果

14回目の授業終了時にアンケートをMoodleからダウンロードさせ、自宅で記入の上、最終授業日に持参してもらった（学年・専修・氏名の記入は自由意思）。回収率：100%

- 5：たいへんそう思う（非常によい）
- 4：ややそう思う（よい）
- 3：どちらともいえない（ふつう）
- 2：あまりそう思わない（あまりよくない）
- 1：まったくそう思わない（よくない）

テーマ・目的は明確だったか	4.8
話し方は明確・聞き取りやすかったか	4.9
重要なことを強調したか	4.9
プリントに沿った授業は理解を助けたか	4.9
ビデオ視聴は授業の理解を助けたか	4.9
授業への熱意が感じられたか	5.0
内容・レベルは適切だったか	4.8
考えが培われたり得るものがあつたか	4.9
学問をする雰囲気が保たれていたか	4.9
教職に就くうえで有益だったか	4.9

5. 学生たちの感想から

12月末まで対面授業を実施した。「このような状況の中、対面で実施してくださり、ありがとうございます。」「学習意欲を高めることができました。」「コロナや2号館工事の騒音の中、たくさんの工夫や配慮をしつつ、毎回熱心に授業をしてくださり、ありがとうございます。」「1月から遠隔になったが、対面と変わらない進め方をしてくださり、ありがとうございます。」など、対面授業実施への感謝の言葉が多く寄せられた。

「指導法」の授業であることを意識し、実際の事例やデータを紹介しながら説明をすることで、学生たちが保育現場や子どもたちの今を具体的にイメージし理解できるよう心がけた。「授業での学びを実践に生かす喜びや子どもへの働きかけが進化していく達成感を感じながら学ぶことができた」等の感想が多く寄せられ、教職に向かう意識の向上が伺われた。